

消化器・肝臓センター

NEW ーす

NO. 64

2020.10



潰瘍性大腸炎治療の 選択肢が増えています！



どんな病気なの？

どんな治療薬があるの？

潰瘍性大腸炎は大腸粘膜を直腸側から連続性におかし、しばしばびらんや潰瘍を形成する炎症性腸疾患の一つです。潰瘍性大腸炎は近年急激に増加してきており、2013年の時点で日本人約750人に一人（約17万人）の患者さんがいらっしゃいます。10歳代後半から30歳代前半に好発することが知られていますが、高齢発症も決して稀ではありません。今後、高齢者人口が増加することから、有病者が高齢層へ移行していくことも予想されています。

潰瘍性大腸炎の治療薬は5-アミノサリチル酸製剤、ステロイドなど様々ありますが、中等症から重症例の治療薬として生物学的製剤があります。生物学的製剤は、潰瘍性大腸炎の患者さんの腸管で作られ、炎症に関わる“インターロイキン（IL）”や“腫瘍壊死因子（TNF） α ”等の物質の働きを弱めることで、炎症を抑える強い効果のあるお薬です。投与方法、投与間隔などで下表のように種々の薬剤があります。

< 各種生物学的製剤 >

商品名	作用機序	投与方法	投与間隔
レミケード®	抗TNF α 抗体	点滴静注	初回、2週、6週に投与し、以降は8週間の間隔で投与
ヒュミラ®	抗TNF α 抗体	皮下注射 (自己注射可)	初回、2週に投与し、4週目以降は2週間の間隔で投与
シンポニー®	抗TNF α 抗体	皮下注射	初回、2週に投与し、6週目以降は4週間の間隔で投与
ゼルヤンツ®	JAK阻害薬	経口	1日2回内服
エンタイビオ®	抗 α 4 β 7 インテグリン抗体	点滴静注	初回、2週、6週に投与し、以降は8週間の間隔で投与
ステララ®	抗IL-12/23 p40 モノクローナル抗体	初回のみ点滴静注 以降皮下注射	初回、8週に投与し、以降は12週間の間隔で投与（効果が弱ければ8週間隔に短縮可）

腹痛、下痢、
血便などがあり、
潰瘍性大腸炎が
ご心配な方は当科
までご相談
ください。



消化器内科
徳田 貴昭



市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865